

令和7年度第2回小高小学校・小高中学校の あり方についての意識調査結果の概要

1 意識調査の有効回収率

No.	区分	調査対象者	対象世帯	有効回答世帯	有効回収率(%)
1	未就学児保護者	小高小学校、小高中学校の通学区域に居住する未就学児(6歳以下)の保護者(世帯)	45	21	46.7
2	在籍児童保護者	小高小学校に在籍する小学1年生から小学6年生の保護者(世帯)	62	35	56.5
3	在籍生徒保護者	小高中学校に在籍する中学1年生から中学3年生の保護者(世帯)	30	18	60.0
合 計			137	74	54.1

2 義務教育9年間で育てほしいこども像について

(1) 全体・回答者ベース

n=74

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全 体	1	【徳】思いやりのある子(優しい子)	44.6
	2	【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子	41.9
	3	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子(困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる)	33.8

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆上位3項目から保護者の多くは、「他者を思いやる温かい心」という人間性の基礎の上に、社会で自立して生きぬくための「主体的な思考力と実践的な行動力」を兼ね備えた、バランスの取れたこどもに育ててほしいと願っている傾向が見られる。

⇒詳細は資料2のP9~P10に記載。

(2) 保護者区分ごと

①未就学児保護者

n=21

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
未就学児 保護者	1	【徳】思いやりのある子(優しい子)	57.1
	2	【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子	42.9
	3	【体】運動を習慣化し、基礎体力がある子	33.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 上位3位に「知」「徳」「体」のカテゴリが入っており、こどもが集団生活を円滑にスタートさせ、健やかに生きていくためのバランスの取れた土台作りを意識している傾向が見られる。

⇒詳細は資料2のP11~P13に記載。

②在籍児童保護者

n=35

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【知】自分で新しい道を切り拓くことのできる子(困難に直面しても諦めず、解決策を見つけられる)	40.0
	2	【徳】思いやりのある子(優しい子)	37.1
	3	【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子	34.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ こどもが学校というより大きな社会に入り、保護者の関心が「主体性」や「問題解決能力」といった「知」の側面へ移っている傾向が見られる。

⇒詳細は資料2のP11~P13に記載。

③在籍生徒保護者

n=18

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子	55.6
	2	【徳】思いやりのある子(優しい子)	44.4
	3	【体】自らの命を守る行動がとれる子	33.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 高校進学や将来を見据え、社会で通用する「自分の意見をはっきり示す力（自己表現力）」を重視している傾向が見られる。
⇒詳細は資料2のP11~P13に記載。

④全体的な傾向

- ◆ すべての保護者区分で
「【徳】思いやりのある子」と
「【知】自分の意見や考えをはっきりと示すことができる子」
が上位に入っており、これらはこどもの成長段階に関わらず、
保護者の多くが共通して強く願うこども像であることがうかがえる。
- ◆ 人間性の土台となる「思いやり」と、社会で主体的に生きるための
「自己表現力」の両方が重視されている。
- ◆ 同時に、こどもの発達段階に応じて求める能力に特徴的な変化が
見られる。
未就学児保護者では「基礎体力」
在籍児童保護者では「問題解決能力」
在籍生徒保護者では「危機管理能力」
と、より具体的で、その時々発達段階に応じた能力の育成を期待していることがうかがえる。

3 現在の小高小学校・中学校の取り組みで良い影響を与えている点について

(1) 回答者全体・回答者ベース

n=53

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全 体	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	50.9
	2	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	26.4
	3	【体】体を動かす機会の確保	24.5

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会性を生みぬくための「主体性（知）」を育ててほしいと願っている傾向が見られる。（資料2のP10）
- ◆ これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、「知」や「徳」だけでなく、保護者の多くは、こどもの心身の健全な発達を支える基本的な活動も学校生活の満足度を左右する重要な要素として認識し、その取り組みを評価しているものと考えられる。

⇒詳細は資料2のP15~P16に記載。

(2) 保護者区分ごと

① 在籍児童保護者

n=35

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	48.6
	2	【知】体を動かす機会の確保	28.6
	3	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	22.9

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍児童保護者の多くは、育ててほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力（知）」、「自分の意見をはっきり示す力（知）」や「思いやり（徳）」を重視している傾向が見られる。
(資料2のP12～P13)
- ◆ これに対し、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、「知」や「徳」だけでなく、在籍児童保護者の多くは、こどもの心身の健全な発達を支える基本的な活動も学校生活の満足度を左右する重要な要素として認識し、その取り組みを評価しているものと考えられる。

⇒詳細は資料2のP17～P19に記載。

②在籍生徒保護者

n=18

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	55.6
	2	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	33.3
	3	【知】小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び	22.2
	3	【徳】児童生徒相互の人間関係の深まりやすい環境	22.2
	3	【体】健康に関する自律心の育成	22.2

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍生徒保護者の多くは、育てほしいこども像として「社会性や自律性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分の意見をはっきり示す力（知）」、「思いやり（徳）」、「危機管理能力（体）」といった、より社会性や自律性を重視する傾向が見られる。
(資料2のP12～P13)
- ◆ これに対し、在籍児童保護者と同様に、「きめ細かな指導（知）」や「あいさつや感謝の気持ちの育成（徳）」が評価されている。
- ◆ これは、少人数教育のメリットをいかした個別指導体制が、学校の強みとして高く評価されていることや、学力だけでなく社会性の基礎となる取り組みも同様に評価されていることがうかがえる。
- ◆ また、「小中連携の学び」、「人間関係の深まりやすい環境」や「健康に関する自律心の育成」も評価されている。
- ◆ これは、学習内容が高度化する中での一貫した学び、思春期特有の友人関係、部活動等で求められる自己管理能力といった、中学生のステージに特有の課題に対応する取り組みが評価されているものと考えられる。

⇒詳細は資料2のP17～P19に記載。

4 現在の小高小学校・中学校の取り組みでさらに充実させると良いと思われる点について

(1) 回答者全体・回答者ベース

n=53

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全 体	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	28.3
	1	【体】体を動かす機会の確保	28.3
	2	【知】外国語教育	22.6
	3	【知】小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び	20.8
	3	【知】探究教育(児童生徒が自ら問いを立て、調べる活動)	20.8
	3	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	20.8

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くは、こどもに人間性の土台となる「思いやり（徳）」と社会性を生みぬくための「主体性（知）」を育ててほしいと願っている傾向が見られる。（資料2のP10）
- ◆ こちらの回答で特筆すべき点は、「育ててほしいこども像」には「徳」と「知」が上位に入っているが、学校への具体的な要望としては、まず全ての活動の基盤となる「心身の健康」が上位に入っている点である。
- ◆ 学校には①個々の能力を伸ばす「きめ細かな指導」、②人間性の基礎を育む「あいさつや感謝の気持ちの育成」、そしてそれら全てを支える③健全な心身を育成する「体を動かす機会」という、知・徳・体のバランスが取れた教育のさらなる充実を期待していることがうかがえる。

⇒詳細は資料2のP21~P22に記載。

(2) 保護者区分ごと

① 在籍児童保護者

n=35

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	【体】体を動かす機会の確保	34.3
	2	【知】探究教育(児童生徒が自ら問いを立て、調べる活動)	28.6
	3	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	25.7

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍児童保護者の多くは、育ててほしいこども像として「主体性や問題解決能力を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分で新しい道を切り拓く力(知)」、「自分の意見をはっきり示す力(知)」や「思いやり(徳)」を重視している傾向が見られる。
(資料2のP12~P13)
- ◆ これに対し、「探究教育」の充実が入っており、「探究教育」を通じて、課題解決能力や主体性の「土台」を築いてほしいという期待がうかがえる。
- ◆ また、「体を動かす機会の確保」が最も多いことから、心身の健全な発達という基礎作りへの関心も高いことがうかがえる。
⇒詳細は資料2のP23~P25に記載。

②在籍生徒保護者

n=18

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒保護者	1	【知】小学校と中学校の連携による、9年間を見通した一貫性のある学び	33.3
	1	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	33.3
	2	【知】外国語教育	22.2
	2	【知】キャリア教育	22.2
	2	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	22.2
	3	【知】プログラミング教育	16.7
	3	【知】学校行事等における、児童生徒一人ひとりの活動機会の多さ	16.7
	3	【体】体を動かす機会の確保	16.7
	3	【体】様々な危険を予測し、安全を確保するための知識と行動力の育成(防災教育)	16.7

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 在籍生徒保護者の多くは、育てほしいこども像として「社会性や自律性を備えた人物像」を挙げており、その具体的な要素として「自分の意見をはっきり示す力（知）」、「思いやり（徳）」、「危機管理能力（体）」といった、より社会性や自律性を重視する傾向が見られる。
(資料2のP12～P13)
- ◆ この期待は、「今後充実させたい点」として「外国語教育」や「キャリア教育」といった、将来社会で自己を表現し活躍するための「実践的なスキル」を求める声に繋がっているものと考えられる。高校進学やその先を見据え、より専門的で具体的な学びを重視する傾向が見られる。

⇒詳細は資料2のP23～P25に記載。

③保護者区分どちらにも共通した傾向

- ◆ 共通して、「児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導」が上位に入っている。
- ◆ これは、少人数教育の環境をいかし、学力だけでなく個々の能力や個性を最大限に伸ばしてほしいと願っていることがうかがえる。
- ◆ また、「育てほしいこども像」で、どの保護者区分でも上位に入っている「思いやりのある子」という願いは、在籍生徒保護者の多くが充実を求める「元気なあいさつと感謝の気持ちの育成」と関連しており、学力だけでなく人間性の育成も学校の重要な役割として期待されていることがうかがえる。

⇒詳細は資料2のP23~P25に記載。

5現在の学校生活における良い点や、満足している点について

(1) 回答者全体

n=53

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
全体	1	こどもが毎日楽しく学校に通っている	47.2
	2	先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている	39.6
	2	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている	39.6
	3	こどもの様子をよく見てくれており、変化に気づいてくれる	24.5

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 保護者の多くが学校生活で良い点や満足している点として挙げた上位3項目は、いずれも「こどもの情緒的な満足感」や「教職員との人間関係」に関する項目に集中している。
- ◆ このことから保護者の多くは、学校が子どもにとって「安心して楽しく過ごせる居場所」であり、先生方が温かく見守ってく

れていると感じていることがうかがえる。

⇒詳細は資料2のP27~P28に記載。

(2) 保護者区分ごと

①在籍児童保護者

n=35

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍児童 保護者	1	先生方が熱心で、愛情をもってこどもに接してくれている	54.3
	2	こどもが毎日楽しく学校に通っている	51.4
	3	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている	37.1

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 「先生が熱心・愛情をもって接してくれる」や「楽しく通っている」が上位に挙げられており、学校がこどもにとって情緒的に安心できる場所であることが評価されていることがうかがえる。

⇒詳細は資料2のP29~P30に記載。

②在籍生徒保護者

n=18

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
在籍生徒 保護者	1	担任の先生だけでなく、多くの先生方がこどもたちを気にかけてくれている	44.4
	2	こどもが毎日楽しく学校に通っている	38.9
	2	タブレット端末などICTを活用した授業が効果的である	38.9
	3	こどもの様子をよく見てくれており、変化に気づいてくれる	33.3

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 「多くの先生が気にかけてくれる」「楽しく通っている」といった項目が上位にあることから、思春期の子どもの細やかな変化

を学校全体で多角的に見守る姿勢に満足感を得ているものと考えられる。

- ◆ また、児童保護者と異なり「ICT を活用した授業」が上位に入っており、より具体的・専門的な学習内容への関心が高まっていることが特徴である。

⇒詳細は資料2のP29~P30に記載。

③全体的な傾向

- ◆ 保護者区分を問わず、「こどもが楽しく通えること」や「多くの先生による見守り」といった、学校の温かい雰囲気や安心できる居場所としての機能が評価されている。
- ◆ 教員一人ひとりの熱心さや子どもへの丁寧な関わりが、保護者の満足感に寄与しているものと考えられる。

⇒詳細は資料2のP29~P30に記載。

6 小高小学校・中学校に期待したい点について

(1) 回答者全体（未就学児保護者）

n=21

区分	順位	回答件数上位項目	割合(%)
未就学児 保護者	1	【徳】元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	52.4
	2	【知】児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導	38.1
	3	【知】充実した外国語教育	23.8
	3	【体】体を動かす機会の確保	23.8

【調査結果から読み取れる傾向】

- ◆ 未就学児の保護者の多くは、こどもがこれから小学校という集団生活を始めるにあたり、「知・徳・体」のバランスの取れた土台作りを学校に期待していることがうかがえる。

- ◆ 人としての根幹をなす「徳」を最重要視しつつ、こども一人ひとりが安心して学べる個別最適な環境（きめ細かな指導）を求めると同時に、グローバル社会を見据えた実践的なスキル（外国語教育）の習得に加え、健やかな「身体」を育むための機会の確保を求めていることがうかがえる。

⇒詳細は資料2のP31~P32に記載。

7 保護者意識調査の総括について

- ◆ 保護者は共通して、こどもの人間的成長の土台（思いやり等）と、社会を生きぬく力（主体性・課題解決力等）の両方を学校教育に期待している。
- ◆ その上で、こどもの成長に伴い、求める教育内容は「土台作り（未就学児）」→「主体的な学びの導入（小学校）」→「将来を見据えた専門的な学び（中学校）」へと、より具体的・発展的に変化していく傾向がうかがえる。